

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370419

研究課題名(和文) 中国トン族歌掛けの生態についての研究 「鼓楼大歌」「行歌坐夜」「歌会」を対象に

研究課題名(英文) A Study on the Antiphonal Singing Songs of Dong People: "the Grand Songs in Drum Towers", "the Love Songs in the Moonlight", and "the Songs in Singing Parties"

研究代表者

牛 承彪 (NIU, CHENGBIAO)

関西外国語大学・英語国際学部・教授

研究者番号：20460842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：中国トン族の歌掛け行事である「鼓楼大歌」「行歌坐夜」「歌会」の生態に焦点を当て、村の生活・環境・習俗・信仰などを視野に入れて実地調査を行い、第一次資料を蒐集した。これに基づいて、トン族の歌謡文化を総合的に考察し、それらの発生・発達要因や、影響関係について探求した。研究成果の一部は『報告書』にまとめた。

研究成果の概要(英文)：The field work has been focused on the antiphonal singing songs of Dong people in China, "the grand Songs in Drum Towers", "the Love Songs in the moonlight", and "the Songs in Singing Parties", which reveal the local village life, the environment, the customs and the beliefs of Dong people. The cultural features, the evolution and the influential factors of the Dong Folk Songs have been studied and recorded in the Report.

研究分野：中国文学

キーワード：中国文学 比較文学 トン族 歌垣 歌謡

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 資料の場合

トン族は中国の貴州省・湖南省・広西チワン族自治区の隣接地域に居住する少数民族である。交通不便な山奥に氏族で村を作って暮らしているため、伝統文化を比較的多く保存・継承しており、歌垣の行事は現在も続いている。歌垣の行事に関する文献記録の古いものは、明・清・民国時代までさかのぼれるが、概略的記述がある程度で、詳しい様子を知ることができない。20世紀50年代から、多声部で歌う「大歌」が世に知られるようになり、本格的な調査が始まった。蓄積してきた関係資料の状況は次のとおりである。

20世紀50年代に蒐集された歌謡資料のほとんどは政治の影響で散逸したり、燃やされたりして、いくつかの歌謡集や調査報告のみ現在に残されている。これらの資料の中、編集の段階で添削・潤色など手が加えられたものが少なくない。

1980年代以降に出版された資料集は各地域の代表的なものを収録した、選集の性格が強い。

歌謡資料の多くは、歌われた時の具体的な状況や背景となるものにはほとんど触れていない。

以上の傾向は現在に至るまで、まだ続いている。

### (2) 先行研究の場合

トン族歌謡の研究は音楽学的・文学的なものが主流である。それらも1980年代以前はイデオロギーの影響を受け、本来の様子を反映したものは程遠い。その後民俗学的研究が盛んになり、歌謡研究においても新しい動きがみられるが、主として民族研究の中で言及する程度にとどまっている。近年になって少数民族の歌謡を対象とする研究者が増えるようになり、トン族の歌謡研究も進められているが、次の傾向がある。

分野別に分けたものが多く、しかも南部方言地域の「大歌」研究に集中している。

研究方法においては「民間文学」の研究方法を用いたものが多く、新しい進展がほとんど見られない。

日本からも研究者がトン族地域に立ち入って調査を行っているが、観光開発や文化資源としての視点が主流で、歌謡研究として全体像が見えるまでには至っていない。

「歌垣」(日本古代と同じ形態のもの)を中国西南少数民族の歌謡と比較した調査研究もあるが、トン族の「鼓楼大歌」「行歌坐夜」と結び付けたものはまだ見えない。

## 2. 研究の目的

中国トン族は歌の文化が非常に発達している。その他の少数民族や日本古代の「歌垣」と同じ形態の「歌会」が行われ、そのほか氏族単位で定期的に行われる男女集団の歌垣の行事「鼓楼大歌」があり、村落の中で行われる小規模の男女グループの歌垣の行事「行

歌坐夜」がある。これまでは音楽学・民俗学・文化人類学・観光学など、多くの分野において調査・研究がなされてきたが、ほとんどは基本状況についての紹介にとどまっている。

本研究は、上述の歌掛け行事の生態に焦点を当て、村の生活・環境・習俗・信仰・伝説なども視野に入れてトン族の歌謡文学を総合的に考察し、それらの発生・発達要因や、影響関係について探求する。それが「トン族歌謡学」の成立につながり、日本の歌謡研究にも理論と方法論で貢献できることを目指す。

## 3. 研究の方法

(1) 歌掛け行事の現場に身を置き、行事が行われた環境、参加者の状況、行事の進行過程などを視野に入れて、参与観察を行い、全過程をビデオカメラ・カメラで記録する。

(2) 調査地の「歌師」「寨老」(村の長老)を調査対象者に、歌掛け行事の伝承状況や彼らがこの文化とかがわってきた過程をめぐって聞き取りを行う。

(3) 伝承が途絶えた歌掛けについては、経験者を通して過去の状況を聞き取る。また経験者にかつての歌掛けの様子を再現してもらい、その過程をビデオカメラとカメラで記録する。

(4) トン族村落の自然的・人文的環境を踏査し、村の生活・習俗・信仰・伝説などをめぐって聞き取りを行い、歌掛けの文化的背景を把握する。

## 4. 研究成果

上述した研究目的と研究方法に基づき、着実に計画通り調査を進めたので、研究目的は十分に達成し、予想以上の成果を収めた。詳しくは次のとおりである。

### (1) 「鼓楼大歌」の場合：

「鼓楼大歌」はトン族南部方言地域に分布している。黎平県においては、永從郷三龍村・岩洞郷竹坪村・岩洞郷岑卜村・岩洞郷岩洞村・双江郷坑洞村、從江県においては、高増郷小黄村・高増郷占里村・高増郷芭扒村の「鼓楼大歌」及び関係の行事をめぐって参与観察を行った。そのほか、從江県・黎平県の複数の村落を踏査し、歌掛けをめぐって聞き取りを行った。これらの調査で以下のことが解明できた。

「鼓楼大歌」の伝承(発生)を支えるのは、山間に点在する村落環境であり、村落同士の相互訪問の「月也」行事である。

「月也」行事で行う客を迎える「攔路歌」は、トン族村落の空間意識に基づいており、歌掛けは穢れをおいはらう機能を果たしている。

「鼓楼大歌」の伝承(発生)を支える要

素に、村落を保護する女神「薩歳」信仰があり、大きな背景をなしている。一部の村落において、両者は融合している。

「鼓楼大歌」「攔路歌」の伝承において、「歌師」が大きな役割を担っており、「歌班」というグループの合唱で実現している。

「鼓楼」の空間で展開する男女グループの歌掛けは、公の場で恋愛の一段階を「模擬」するものであり、年齢層によって異なる機能をはたしている。若者はこの後、さらに「琵琶歌」へ進み、本当の恋の過程に入る。

グループの間で掛け合う「大歌」の歌詞は、恋に陥った男女が第一人称と第二人称でそれぞれの心境を訴える内容が基本であり、「叙事」の形式が用いられている。

## (2)「琵琶歌」の場合：

「琵琶歌」は南方方言地域に分布している。「月堂」で寝泊まりする若い娘たちと、訪れてきた若い男性との間に歌を掛け合う習俗である。現在は基本的には途絶えているので、二種の「琵琶歌」をめくって、聞き取りを通して実態を把握し、経験者に昔の様子を再現してもらった。次の二種である。

黎平県岩洞鎮を中心に流行する「六洞琵琶歌」

黎平県洪州鎮を中心に流行する「平架琵琶歌」

## (3)「歌会」の場合：

「歌会」は主として北方方言地域に分布している。清水江流域の村落で行われる「四十八寨歌節」(国指定の非物質文化遺産)を重点とし、「三門塘歌場」「抱塘歌場」「新寨歌場」「阿婆坳歌場」「両頭坳歌場」を踏査し、「岩湾歌会」「溪口歌会」「聖徳山歌会」「高壩歌会」(後ろの二者は北方方言地域の「歌会」の代表)について参与観察を行った。これらの調査を通し、以下のことが解明できた。

「歌会」と「歌場」の発生には政治的・社会的要因がかかわっている。すなわち戦乱時代に一定区域内の村落が結ばれた軍事的・半軍事的連盟である「款」が中心に、「四十八寨」という地域が形成し、共通文化が形作られたのである。

「歌場」と「歌会」の根底には、悠久な歴史の中で脈々と続いてきた歌掛け文化が存在する。現在の「歌場」と「歌会」の発生はミャオ族と一定の関連性を持つ。

「歌場」の類型には山・寺院・市場・特定の祭事といった四種に分けられる。

歌掛けは機能によって、「歌会」の内、「歌会」の外、という二つの段階が存在する。

歌掛けの歌詞は「歌場歌」と「玩山歌」に分けられ、それぞれ異なる特徴を持つ。

## (4) 歌掛け習俗の文化的背景を把握

歌掛け習俗の文化的背景として、従江県においては、貫洞鎮独洞村の「吃相思」、翠里郷の「玩变婆」、巨洞村の「闘牛」、銀潭村の

「月也」、黎平県においては、坑洞村の「趕鬼節」、中蘭村の「祭吳勉」などの行事をめくって参与観察を行った。これらの行事のなか、歌掛けと融合したものもある。

## (5) 資料整理と研究活動

現地調査で収集したビデオ・写真・音声資料について、文字整理・分析を行った。また中国の研究者と協力しあいながら、調査研究・交流を行った。主な研究成果は『王澤忠歌師手抄歌本』(107頁)、『調査研究報告書』(384頁)としてまとめ上げる。



(『王澤忠歌師手抄歌本』)



(『中国トン族歌掛けの生態についての研究』)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

(1) 牛承彪「中国侗族大歌“生態”記録和研究」(中国語)、名古屋大学国際開発研究科『ディスカッションペーパー』第 205 号。査読なし。2017 年 4 月。p1 - 38。

(<http://www.qsid.nagoya-u.ac.jp/bpub/research/public/paper/index.html>)

(2) 牛承彪「对侗族歌谣研究方法的探討」(中国語)、調査研究報告書『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(課題番号：26370419)、査読なし。2017 年 3 月。p160

(3) 櫻井龍彦「人类为什么唱歌」(中国語) 調査研究報告書『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(課題番号: 26370419) 査読なし。2017年3月。p147 - 159。

(4) 茶谷恵理子「トン族大歌 10 曲の楽曲分析とその音楽的特徴」調査研究報告書『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(課題番号: 26370419) 査読なし。2017年3月。p144 - 146。

(5) 呉定国「侗族民歌的“韵”——以侗族大歌为例——」(中国語) 調査研究報告書『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(課題番号: 26370419) 査読なし。2017年3月。p140 - 143。

(6) 秦秀強「湘黔边界四十八寨民族歌会源流考」(中国語) 調査研究報告書『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(課題番号: 26370419) 査読なし。2017年3月。p133 - 139。

(7) 牛承彪「歌謡の二つの場をめぐって」日本歌謡学会『日本歌謡研究』第56号。査読あり。2016年12月31日。p113 - 122。

(8) 石林「侗族民歌传承实态及文化背景分析——以贵州省锦屏县高坝寨为例——」関西外国語大学国際文化研究所『THE JOURNAL OF INTERCULTURAL STUDIES』。査読あり。2016年12月。p89 - 107。

(9) 牛承彪「侗族伝統〈攔路〉対歌習俗形成的文化背景分析」(中国語) 貴州民族学与人類学高等研究院『中国山地民族研究集刊』第3期(社会科学文献出版社)。査読あり。P26 ~ 51。2015年8月。

(10) 櫻井龍彦「日本の山神」(中国語) 貴州民族学与人類学高等研究院『中国山地民族研究集刊』第4期(社会科学文献出版社)。査読あり。2015年6月。p3 ~ 24。

(11) 牛承彪「侗族歌謡の実態和伝承研究以 鼓楼大歌 為例」(中国語)。『文化遺産研究』第四輯(巴蜀書社)。査読あり。2014年12月。p124 ~ 141。

(12) 牛承彪「中国トン族の村における空間意識と歌をめぐって 貴州省黎平県岩洞寨を中心として」。関西外国語大学『研究論集』100号。2014年9月。p115 ~ 134。

(13) 櫻井龍彦「民俗創造生活、民俗重建生活」(中国語) 天津大学・馮驥才文学芸術研究院『当代社会中的伝統生活国際學術研討會論文集』。査読なし。2014年7月。p31 ~ 44。

〔学会発表〕(計 6 件)

(1) 櫻井龍彦「人類為什麼唱歌」招待講演。広州大学。2016年10月。

(2) 櫻井龍彦「歌うという行為をめぐって」基調講演。大連大学。2016年9月。

(3) 櫻井龍彦「歌掛け習俗の比較研究における課題」招待講演。貴州省師範学院高等研究院。2016年2月19日。

(4) 牛承彪「侗族歌謡研究的課題和方法論」研究発表。貴州省師範学院高等研究院。2015年8月24日。

(5) 牛承彪「中国少数民族の挽歌 葬礼歌謡の機能と冥界の道」研究発表。「第一回韓国伝統葬礼文化の伝承国際學術セミナー」。嶺南大学。2014年11月14日。

(6) 牛承彪「中国トン族の歌について～ 歌謡文化の視点から～」招待講演。関西文化學術研究都市7大学連携「市民公開講座」。国立国会図書館関西館。2014年9月12日。

〔図書〕(計 2 件)

牛承彪『中国トン族歌掛けの生態についての研究』(調査研究報告書。課題番号: 26370419) 2017年3月。総p384。富士ゼロックス大阪教材開発支援センター。

牛承彪『王澤忠歌師手抄歌本』(歌謡資料集。課題番号: 26370419) 2016年7月。総p107。富士ゼロックス大阪教材開発支援センター。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

牛承彪 (NIU, chengbiao)

関西外国語大学・国際言語学部・准教授  
研究者番号: 20460842

### (2) 研究分担者

櫻井龍彦 (SAKURAI, tatsuhiko)

名古屋大学・国際開発研究科・教授  
研究者番号: 60170643